

# 選手・監督注意事項

1. 2019年度公益財団法人日本陸上競技連盟規則および本大会申合せ事項による。
2. 選手招集について
  - (1) 選手招集所は、第4ゲート付近のスタンド下室内走路に設ける。
  - (2) プログラム記載の招集開始時刻までに招集場所に集合すること。招集開始時刻より点呼を開始する。その時、競技者本人がナンバーの確認を受けること。
  - (3) 招集完了時刻に遅れた選手は、その競技種目に出場できない。ただし、他の種目に出場している招集時刻に間に合わない場合は、1種目目の招集時にプログラム添付の「2種目同時出場届」を招集所の競技役員に提出すること。
  - (4) 招集所から競技場所への移動は各自で行い、現地係員より最終点呼を受けること。
  - (5) 混成競技については、第1日目、第2日目の最初の競技種目については、他のトラック種目と同様とする。ただし、以降の競技種目は混成競技役員の指示に従い、混成控室に集合すること。
  - (6) 棄権をする場合は、招集開始時刻までに招集所に置いてある「欠場届」に必要な事項を記入し提出すること。ただし事前にわかっている場合は、プログラム添付の欠場届(団体用)に記入の上、大会開催当日の顧問会議までに顧問から提出すること。
3. ナンバーカードについて
  - (1) ナンバーカードは選手登録時に配布されているものを、そのままの形でユニホームの胸部と背部に着けること。ただし、跳躍種目に出場する選手は、胸部または背部のいずれか一方でよい。
  - (2) トラック競技に出場する選手は選手登録時に配布されている腰ナンバーカードをつけること。ただし、1500m以上の種目と4×400mRの第4走については、招集時に配布される通し番号の腰ナンバーカードを着用すること。
4. トラック競技での不正スタートは1回で失格とする。(日本陸連競技規則162条による)
5. スパイクシューズのピンの長さは全天候舗装につき平行ピン9mm以下とする。ただし、走高跳・やり投は平行ピン12mm以下とする。ピンの数は11本以内とする。
6. リレー競技について
  - (1) リレーチームの編成メンバーは、どのラウンドにおいてもこの競技会のリレーまたは他の種目に申し込んでいる競技者であれば出場することができる。ただし、どのラウンドにおいても出場するメンバーの少なくとも2名はリレーに申し込んだ競技者でなければならない。最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して、2名以内に限り他の競技者と交代することができる。
  - (2) オーダーは、各ラウンドともプログラム添付のオーダー用紙に記入し、招集完了時刻の1時間前までに招集所に提出すること。遅れたチームはその競技種目に出場できない。
  - (3) リレーに出場するチームは、上下同一のユニホームを着用すること。
7. 跳躍競技のバーの上げ方を次の通りとする。(コンディションにより変更することがある。)
 

第1位および北信越大会出場の見定め戦は、棒高跳は5cm、走高跳は2cmの上げ下げにより行う。なお、棒高跳の参加者は競技開始前までにアップライトの申告書を競技者係に提出すること。その後、位置を変更したい場合は跳躍審判員に申し出ること。

種目	性別	練習		バーのあげ方									
走高跳	記男 高男	1.60	1.80	1.60	1.65	1.70	1.75	1.80	1.85	1.90	1.95	1.98	...
	混成男	1.35	1.60	1.40	1.43	1.46	1.49	1.52	1.55	1.58	1.61	...	
	記女 高女	1.30	1.50	1.35	1.40	1.45	1.50	1.55	1.58	1.61	.....		
	混成女	1.10	1.30	1.15	1.18	1.21	1.24	1.27	1.30	1.33	.....		
棒高跳	記男	3.00	3.20	3.40	3.60	3.80	4.00	4.20	4.30	.....			
	記女 高女	1.60	2.80	1.60	1.80	2.00	2.20	2.40	2.60	2.70	.....		
	高男	2.20	4.00	2.40	2.60	2.80	3.00	3.20	3.30	3.40	.....		

8. フィールド競技は、主催者が用意したマーカーを置くことができる。
  - (1) 跳躍・やり投の競技者は、助走路の外側(走高跳では助走路内)に2カ所置くことができる。
  - (2) サークルから行う投てき競技では、マーカーを1つだけ使用することができる。そのマーカーはサークルの直後あるいはサークルに接して置くこと。マーカーは、それぞれの審判員が現地で渡す。そのマーカー以外は使用してはならない。
9. フィールド競技において参加多数の場合、パスラインを設けることがある(審判長の指示による)。男子三段跳は原則として12m板を使用するが、出場選手の最高記録やコンディション等により11m板とする場合がある。その場合1ピットでの実施となる(当日の朝の顧問会議にて決定)。女子三段跳は9m板を使用する。

10. 短距離種目では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分のレーン(曲走路)を走ることをすること。
11. 男子5000mWは制限時間を設け、3000mを20分以内に通過できなかった選手は、競技を中止する。
12. プラスアルファの選出について
  - (1) 記録の上位者から順に選ぶ。ただし、1/100秒まで同じ記録の場合は、1/1000秒まで記録を出し、0.001秒以上の差があれば着差ありとして順位を決定する。
  - (2) 着差がないと判断された場合は、該当者を招集し抽選により決定する。
13. 予選がある場合、欠場により決勝ができる人数、チーム数になっても予選は実施する。
14. 競技場内での助力は禁止とする。(日本陸上競技連盟競技規則144条による)
15. 競技用具は、棒高跳用ポール以外、すべて主催者が用意したものを使用しなければならない。
16. 各自が使用したペグなどの用器具類は必ず指定の場所に後始末すること。
17. 各学校割り当ての補助員は監督の責任のもとで大会運営に協力すること。
18. 学校対抗について
  - (1) 男子および女子別の種目得点合計によって順位を決定する。
  - (2) 各種目得点は、1位8点・2位7点・3位6点・4位5点・5位4点・6位3点・7位2点・8位1点とする。
19. 表彰について
  - (1) 各種目の3位までの入賞者は、成績発表後に本部前で表彰を行うので表彰待機所(中央ホール)に集合し、競技役員の指示に従うこと。なお、次の種目等の参加や体調不良によりどうしても表彰式に参加できない場合は、表彰の係に申し出て、各学校で責任を持って代理を立てること。
  - (2) 男女総合は男女とも6位まで表彰する。(同点の場合は上位入賞数の多い学校を上位とする)
20. 北信越新人大会出場について
  - (1) 本大会は各種目8位までの入賞者で出場意思のある上位4名は、北信越大会出場資格を得る。なお、入賞者は玄関ホール内受付で出場確認をすること。
  - (2) 北信越新人大会出場者の決定については(4位以上の入賞者が4名を越えたとき)
    - ア トラック競技種目の場合は、該当者の抽選で決定する。
    - イ 高さを競う競技の場合は、1位決定ルールを適用し、当該者の1回の追加試技で決定する。追加試技で決められない場合は繰り返す。
    - ウ 参加種目人数が4名以下の場合は、失格・記録なしの選手は出場権を得ない。
21. 大会時の事故やけがについては、本競技場医務室にて応急処置のみ行う。
22. 盗撮、不審者対応について
  - (1) 防犯上の理由のため、競技会場で選手の家族や学校関係者がカメラ・ビデオ・携帯電話等の撮影機器を使用する際には、撮影許可申請を提出し、撮影許可証を携帯された方のみ撮影ができる。撮影許可証については、当日正面玄関ホール内にある受付で撮影許可申請書に必要事項を記入し、預かり金(1,000円)を支払い許可を得ること。撮影許可証の有効期間は当日(1日)限りで、競技終了後20分以内までに必ず返却すること。(撮影許可証返却時の際、預かり金を返却します。)
  - (2) 報道等で撮影を行う場合は、必ず事前に受付をして、主催者が用意したビブスを着用すること。
  - (3) 撮影対象が競技会方針と異なると思われる場合は、記録内容の確認を求められることがある。事案によっては、警察に引き継ぐこともある。
  - (4) 観戦をしている中で、競技運営に重大な支障をきたすような発言やヘイトスピーチと取られる発言や看板等の掲示があった場合、または他の観戦者に迷惑を掛けていると判断した場合は退場を求める。
23. その他
  - (1) メインスタンド下通路(大会運営室側)は、競技者の通行を禁止する。競技終了後は第1ゲートから出てスタンドの外側を通ること。また、芝スタンドの通路を利用して移動すること。
  - (2) 当該種目出場の競技者以外は競技場内に立ち入ることができない。
  - (3) 本競技場のメインスタンド下の二階通路については、当日の開門まで場所取りを禁止する。(場所取りについては別に定める。)
  - (4) 競技場内の更衣室の占有は禁止する。(マットやシートを使用した場所取りをしない)
  - (5) メインスタンドでの集団の応援は禁止する。
  - (6) 通行の妨げになるため、芝スタンドの前方手すりにテント設営のためのひもをかけないこと。
  - (7) 100mスタート後方ならびにフィニッシュ前方の芝スタンドについては、テント設営禁止区域とする。(当日ロープで指定する)また、設営したテントはペグやヒモ等で固定し、大会期間中の天候の変更に十分注意し、各学校で責任を持って管理すること。
  - (8) 補助競技場(アップ場)での円盤投、ハンマー投、やり投の投球練習は禁止する。砲丸投については練習場係の付き添いの元、専用練習場での練習を認める。
  - (9) 本競技場での練習は、2日間とも競技開始の30分前までとする。
  - (10) 競技場の開門は2日間を通じて6時30分とする。
    - ア 正面入り口からの入場は各チーム2名づつとし、並んでいたすべてのチームの入場が終えるまでは同じチームの選手の入場はできない。
    - イ 「のぼり」、「横断幕」の設置はメインスタンドの最上段のみ設置してもよい。
  - (11) ダグアウトの各学校割り当てについては、事前の顧問会議での抽選で行う。